

# 企画構成 (2)

2007.5.22

マニュアルライティング (2007 年度)

# 本日の内容

- 必要な情報を用意する
- 前回のフィードバック
- 構成案を作成する
  - 構成方針の決定
  - 情報の分割・分類 [グルーピング]
  - タイトルを付ける [ラベリング]

# 連絡事項

- IT's Class 稼働状況確認中
- 次回は実習形式の予定
- 第 2 回レポート課題を次回講義時 (5/29) 説明予定  
→麻疹休講の場合は、学部サイボウズにて連絡

# 企画構成の概要

## マニュアル制作における企画構成プロセスとは？

- 説明対象を把握する
- 目的を明確にする
- ターゲットユーザーを決める
- 必要な情報を用意する
- 構成案を作成する

→実際に文章を書く前にこれだけの準備が必要

# 情報の用意 (1/5)

## 企画構成プロセス (4)

説明対象を把握する

目的を明確にする

ターゲットユーザーを決める

→ 必要な情報を用意する

構成案を作成する

# 情報の用意 (2/5)

## 「必要な情報」とは？

- 伝えたい情報
- 目的を実現するために必要な情報
- ターゲットユーザーに必要と思われる情報
- その他（法令規定、業界ルール）

# 情報の用意 (3/5)

コンテキストを踏まえて、必要な情報を考える

- ユーザーに何が伝われば OK なのか
- 自分がユーザーだったらどう思う？
- 必要な情報の枠組みを構築する
- 枠組みが決まれば、あとは埋めるだけ  
→ 枠組みに従って情報を収集する

# 情報の用意 (4/5)

## ユーザータスク型の場合の枠組み

- 導入情報
- 操作手順情報  
→ 操作とフィードバック
- 注意情報 (必須の付加情報)  
→ 「～してはならない」「～できない」
- 補足情報 (任意の付加情報)  
→ 「～してもよい」「～することもできる」

# 情報の用意 (5/5)

## 枠組みに関する注意

- 枠組みをゼロベースで構築するだけでなく、既存の情報からの仮構築も併用する
- 既存の枠組みを常に疑う態度も必要

# 構成案の作成 (1/2)

## 企画構成プロセス (5)

説明対象を把握する

目的を明確にする

ターゲットユーザーを決める

必要な情報を用意する

→ 構成案を作成する

# 構成案の作成 (2/2)

## 構成案を作成するために必要な要件

- マニュアルの構成方針を決める
- 構成方針に従って情報を分割・分類する  
(グルーピング)
- 分割・分類した情報にタイトルを付ける  
(ラベリング)

# 構成方針の決定 (1/4)

## マニュアルで提供すべき情報全体のデザイン

- メディアの使い分け
- 分冊の構成
- 情報をまとめる視点

→目的とユーザーにより、最適な構成は変わる

# 構成方針の決定 (2/4)

## 提供メディアの使い分け

- 紙媒体
  - 冊子
  - ペラ (ちらし、ポスター)
- 電子媒体
  - ヘルプ
  - Web サイト
  - UI 組込

# 構成方針の決定 (3/4)

## 分冊の構成

- 導入ガイド
- マニュアル本体
- トラブルシューティング
- リファレンスガイド
- 事例集
- …その他いろいろ

# 構成方針の決定 (4/4)

どのような視点で情報をまとめるのか

- ユーザータスク型
- リファレンス型
- チュートリアル型

# 作業課題

## 提供メディアの使い分け

DVD レコーダーに以下のマニュアルが付属する場合のメリットとデメリットを考察する

- テレビ画面に表示される形式の「はじめにお読みください」
- テレビ画面に表示される形式の「困ったときは（トラブルシューティング）」

→それぞれ理由も書く

# 情報の分割・分類 [グルーピング] (1/5)

## グルーピングが必要な理由

- 情報に秩序を与える
- 大量の情報から目的の情報を探しやすいにする
- 目的の情報を絞り込みやすいにする

# 情報の分割・分類 [グルーピング] (2/5)

## 具体的には…

- 情報を特定の観点・基準でまとめる
- まとめた情報の関係を示す
- まとめた情報を階層化する
- 構成案段階では 3 階層程度を目安に
  - 最終段階では 6 階層 (5+1) になる場合も
  - 視覚表現で差別化できないため

# 情報の分割・分類 [グルーピング] (3/5)

## グルーピングにあたっては…

- 情報量に注意：マジカルナンバー 7 ( $7 \pm 2$ )
- 階層を深くするよりも幅を広げたほうが良い
- ユーザーによって判断が分かれる基準は避ける
- 過剰な分類はかえって混乱を招く

# 情報の分割・分類 [グルーピング] (4/5)

## グルーピングした情報の配列順

- 重要性
- 使用・閲覧頻度
- 操作対象からの類推（メニュー配置順など）  
→特にリファレンス型の場合

# 情報の分割・分類 [グルーピング] (5/5)

## 補足：一般的な考えかた (LATCH)

- L (Location) : 位置関係 (例 : 地図)
- A (Alphabet) : タイトル名順 (例 : 索引)
- T (Time) : 時間順 (例 : 発表日)
- C (Category) : 属性 (例 : 商品分類)
- H (Hierarchy) : 大きい・小さいの程度 (例 : 容量)

# 作業課題フィードバック (1/7)

## SCN スペシャルシーンモードで撮る

SCN

撮影モードを選ぶだけで、撮影シーンに最適な撮影ができます。



### ポートレート

人物をやわらかい調子で撮影できます。



### ナイトスナップ

夕暮れや夜景をバックに人物をスナップ撮影したいとき、三脚がなくても手ぶれを少なく撮影できます。



### キッズ&ペット

よく動きまわる子供やペットを、シャッターチャンスを見逃さずに撮影できます。



### パーティー/室内

蛍光灯や電球のもとで、手ぶれをおさえ被写体に忠実な色味で撮影できます。



### 新緑 / 紅葉

新緑、紅葉、桜な



### スノー

雪景色をバック



SCN  
スペシャル  
シーン

# 作業課題フィードバック (2/7)

変わってない…

- スペシャルシーンモードでベストに撮る
- ジャスト・シーン・プログラムで撮る

→導入文でフォローしてもダメ

目次で意味がわからないと無意味

# 作業課題フィードバック (3/7)

## 困ったときは調

- 撮影場所によってうまく撮影できない場合
- 綺麗な写真が撮りにくいとき

# 作業課題フィードバック (4/7)

## カタログ調

- 十景十色 — 美しい思い出をより美しく
- こだわりの一枚を！綺麗な写真を撮るためには
- 思い出のアルバムを作ろう！
- キレイに撮ろうよ、スペシャルシーンモード
- ちょっと特別な写真を撮りたいときに  
～ おすすめの撮影モード

# 作業課題フィードバック (5/7)

## 正攻法

- 人物・風景をより綺麗に撮る
- 撮影場所に最適な撮影ができるモードで撮る
- 被写体に最適な設定を6つの基本モードから選んで撮影する (ポートレート、ナイトスキップ、…)
- 場面に合わせてより美しい写真を撮る
- 状況に合わせて最適な設定モードを選ぶ (スペシャルシーンモード)

# 作業課題フィードバック (6/7)

## 複数階層で勝負

人や物、風景、夜などに撮影するときの設定

→ナイトモード（夜に撮影するとき）

→スノーモード（ゲレンデで撮影するとき）

→ポートレートモード（人物を撮影するとき）

# 作業課題フィードバック (7/7)

## 今回のポイント

- 問題の出やすい特定場面専用に撮影パラメータが最適化された撮影モードをどう説明するか
- ユーザーの目的はモード選択ではなく綺麗な写真
- 他の手動調整系撮影機能とのバランス
- 機能名を活かす (企画／営業対策)
- 安易にカタカナ語 (外来語) を使用しない

# タイトルを付ける [ラベリング] (1/3)

## ラベリングにあたっては…

- 他のグループと区別できるように
- タイトルだけで内容が推測できるように
- ユーザーによって、わかりやすい名前が異なる
- コピーライティングとは異なることに注意  
→魅力的なコピーよりもわかりやすさを優先

# タイトルを付ける [ラベリング] (2/3)

## マニュアル特有の問題 (1)

- 簡潔明瞭にする  
→見出しスペースの物理的制限にも注意
- 予備知識を必要としない
- 機能名や UI オブジェクト名など、説明対象に依存する用語を単独で使用しない
- 情報の内容でなく、ユーザーの目的を考えて表現する

# タイトルを付ける [ラベリング] (3/3)

## マニュアル特有の問題 (2)

- ユーザーに不利益のある情報（注意や制限事項）は、タイトルの時点で明確にする
- タスク型の場合は、「～する」という表現にする
- 「～について」という表現は避ける
- 安易にカタカナ語を使用しない

# 次回の予定

## 実習

- 構成案を作成する
- グループ単位で作業課題に対処する